クリトリスにお仕置きお注射

夜ノ幻森

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

【作品タイトル】
　クリトリスにお仕置きお注射

【Ｎコード】
Ｎ２８１３ＨＣ

【作者名】
　夜ノ幻森

【あらすじ】
　お尻叩きを凌ぐ痛みと羞恥を伴なうおしおきを課される女のコのお話。

「げっ、」

ある日の事。
何て事ない日常の学校生活の、いつも通りの授業風景の中、教壇に立つ英語教師が紙束を手にした——そのＢ５サイズのプリントには見覚えがあった。

先週やった、英単語の小テスト。その結果に自信のなかった私は恐怖に震えた。

先生が厳しい？
いや、先生が体罰なんてすればあっという間に叩かれる今日この頃。
その上点数自体は平均点は大きく上回っている。
先生が目くじら立てて怒るような成績ではない。

だから。
私が恐れているのは帰った後、両親によるお仕置きだ。

ん？
お尻を叩かれる？
確かに高校生にもなってそれは恥ずかしい。
だけどそんな生易しいお仕置きなら私は今こんな冷や汗は流していないだろう。

私が恐れるお仕置きは。

「沙織。……分かっているな？」
「……はい」

もう、いつもの事となった事なだけ、下手に逆らうともっと酷い事をされるのが分かっているから、私は“いつもの通り”、パンツを脱いで両足を大きく開き座る。

実の両親とはいえ、もう高校生にもなって、こんな恥ずかしい場所が見えてしまう格好をするのは恥ずかしい。
しかし、我が家ではよく行われるこのお仕置き、故にすでに生え揃っているはずの毛は常にキレイに剃られ、いわるゆパイパンマンコが丸見えだ。

「こんな簡単なテストで満点を取れないとは嘆かわしい。そんな不出来なお前にはやはり仕置が必要だな？」
「……はい、お願いします」
「今日のところは生食で勘弁してやるが、次もこうならもっと痛い薬を使うからな」
「……はい」

父が私の体を椅子に縛り付け、母が注射器のシリンジを生理食塩水で満たしていく。

その、注射針が突き立てられるのは。

御開帳したおマンコの、ヒダヒダに隠された、一番敏感な突起。
母が指で包皮を剥きあげ露出させたクリトリス。
そこをアルコール綿でグリグリやって勃起させた、その先端に――

スッ、と。

傍から見る分にはすんなりと刺さる細い針。

だが、刺される方はたまったものじゃない。

激痛。

「ぎゃぁぁぁぁ！」

ホント、何度経験しても慣れる事のない恐ろしい痛み。

だが、まだ針が刺さっただけ。本当に痛いのはここからだ。

ピストンが押され、生理食塩水が小さなクリトリスを膨らませていく。

生理食塩水に圧される激痛。

しかし今日はこれがただの生理食塩水だからこれで済んでいるけど。

酷いときにはもっと刺激のある、つまり痛い薬に変えられてしまう。

度々行われるこのお仕置きで、クリトリスが大きくなりすぎたら。

その先端を切るお仕置きが待っている。

その痛みたるや。

それが嫌なら良い点を取れば良いってお母さんもお父さんも言うけど。

私だって勉強はしてるんだ。

でも、お仕置きの後が痛くて痛くてなかなか集中できないんだよ。

注射器一本分の生理食塩水が入り、今日のお仕置きは終わったけど。

ああ、ずいぶん大きくなったなぁ……

「次はカットするからな、それが嫌なら勉強しろ」

注射針は抜かれても、クリトリスに注入された生理食塩水はそのままあるのだから、痛みは残っているし、まだ当分はひかないのは分かっている。

しかし、カットされる痛みはこの痛みすら可愛く思えるくらいに痛いのだ。

私は無駄と悟りながらも、儚い希望を捨てきれず、勉強の為に痛みを堪え私室で明日のテストの勉強に勤しむのだった。